

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**内外化成(株) 研究開発センター 京都工場**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010  
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.2)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>						<b>2.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・遠征制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>1.8</b>	0.25	-	-	<b>1.8</b>
<b>3.1 屋光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	-	-	
1 屋光率		1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 屋光制御		1.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.8</b>	0.25	-	-	<b>2.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>2.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	居室の天井高さ3.5m以上	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	外装及び内装材について防汚性の高いものを採用	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能が容易に出来る様に配慮	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.9</b>	0.31	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			2.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.3	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく修繕・更新が可能	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	バックアップ設備のためのスペースが確保されている。	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制			1.0	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		照明に照度計算による適正照度にて高効率化を図る	5.0	0.43	-	-	5.0
3a	集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		5.0	-	-	-	
3b	集合住宅の評価		3.0	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	乾式工法により分別が容易となっている	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用していない	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		ガス設備を利用しない為、燃焼機器は無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車及び駐輪スペースの確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	